

科目	発達障害作業療法学演習	担当	林原 千夏	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	1単位

**【授業目標・到達目標】**

発達障害作業療法における作業療法士の役割について理解することができる。

- ①各領域の定型発達について理解し、発達期に障害を持つ対象者の問題点と利点の整理が行える。
- ②治療の基礎となる様々な理論があることを知り、対象者の症状に併せて応用しようとすることができる。

**【履修注意】**

発達障害作業療法学で学んだ基礎知識の整理をしておくこと。また、講義内容は変更することもある。

**【評価方法】**

試験 レポート 出席

**【試験について】**

実施する

再試験対象者の条件： 出席、レポート、期末試験の結果が6割に満たない学生を対象とする。

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

**【教科書】**

書籍名： 発達障害と作業療法(基礎編)                      著者： 岩崎清隆                      出版社： 三輪書店  
               発達障害と作業療法(実践編)                      岩崎清隆 岸本光男                      三輪書店

**【参考書】**

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	ライフステージと作業療法	ライフステージに応じた発達課題と作業療法について
2	発達の復習1	姿勢運動発達について
3	治療各論1	姿勢と移動の援助
4	発達の復習2	手の発達と目と手の協調性の発達について
5	治療理論1	ビジョントレーニング
6	発達の復習3	社会性の発達について
7	治療理論2	LSTとSST
8	治療理論3ー①	感覚についての基礎知識を体験しながら学ぶ
9	治療理論3ー②	感覚と体の発達を促す生活の工夫とあそびについて
10	発達の復習4	描画の発達について (DAMの紹介もします)
11	治療理論4	TEACCH
12	治療理論5	応用行動分析理論
13	発達の復習5	摂食機能の発達
14	治療各論2	食事の援助について
15	復習とまとめ	
16	定期試験	